

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION OF JAPAN AND TAIWAN

日台稲門会

会報 第22号



発行所：日台稲門会
会報・NL編集委員会

office@nittai-toumon.com

発行人：根本 宏児

編集責任者：橋本 紀明

新会長 就任挨拶

会長就任にあたり

根本 宏児



6月10日の23年度総会で、日台稲門会の会長に就任することになりました根本です。私は、2015年から2018年の3年間、台湾に駐在する機会を得て、日本人会、台北工商会、そして台北稲門会、台湾校友会、三三会などを通じて、多くの台湾の方々及び在台湾の方々とお会いすることが出来ました。それまで台湾に関する知識が多かったとは言えませんが、すっかり台湾のファンになってしまいました。台湾の素晴らしい自然は勿論のこと、台湾の方々にとても親切にして頂き、帰国後も何か台湾のお役に立てることができればという思いで、日台稲門会に参加し活動してきました。

最近特に地政学上さまざまな局面で台湾の重要性が議論されるようになってきています。我々も折に触れ台湾の素晴らしさを様々な方々に伝えていくことが益々大切になってきていると考えております。

皆さんとともに日台稲門会をさらに盛り上げていきたいと考えておりますのでどうぞよろしく願います。

(1981年政治経済学部卒、
福島県いわき市出身)

新幹事長 就任挨拶

幹事長就任に寄せて

丸山 弘子



名前を原音で呼びませんか。

日韓の間では原音主義が採用されているので、NHKのニュースでも尹錫悦(ユン・シギョク)大統領と呼んでいます。しかし、馬英九(ばえいきゅう)氏と言われると、なぜか違和感を覚えるのは私だけでしょうか。

WBCでは各国から日本へ審判が来られました。WBCの共通言語は英語なので、台湾人審判の名前も原音で表記され、初めの一步を踏み出した良き兆候だと感じました。原音が分からなければ、英語で言えませんし、そして、何よりも名前を原音で発音することは、相手をリスベクトすることになるからです。

最近、『日経新聞』では蔡英文(ツァイ・インウエン)総統、『読売新聞』と『朝日新聞』では、蔡英文(ツァイ・インウエン)総統と原音表記を併用するようになってきました。

『朝日新聞』では、馬英九(マー・インチュウ)、習近平(シー・チンピン)と表記しています。一方、『読売新聞』では、馬英九(マー・インジュウ)、習近平(シー・ジンピン)、台北市長の蔣万安(ジアン・ワンアン)と一層原音に近い表記となっています。中国語には声調もあり、日本語のカタカナで中国語の原音を100%正しく表記できませんが、蔣万安(しょうまんあん)

と日本語で呼びすぎるよりは、原音の方がリスベクトを感じます。
台湾の友人から私は弘子(ヒロコ)と原音で呼ばれ、私も彼らの名前を原音で呼びます。友好交流はキャッチボールでなければなりません。
(2001年早稲田大学大学院アジア太平洋研究学科修了)

新事務局長 就任挨拶

事務局長就任にあたって 西本 誠



和歌山県出身、1983(昭和58)年早稲田大学商学部卒業です。1992年(98年、台北・高雄に駐在したのが台湾との縁です。当会へは、2009(平成21)年に入会し、地方への単身赴任を機に一旦退会した後の帰り新参ですが、よろしく願っています。

新幹事 就任挨拶 広谷 光紗



広島県出身、2003年に早稲田大学法学部を卒業しました広谷光紗と申します。

台湾への留学・赴任経験はありませんが、大好きな台湾について活動する機会を与えていただきました。早稲田、台湾からつながったご縁に感謝いたします。よろしくお願いいたします。

新幹事 就任挨拶

フーシンイ
傅馨儀



早稲田大学法学研究科博士課程の傅馨儀と申します。

出身は台湾の台北です。大学を卒業後、台湾の国家公務員試験と司法試験に合格し、最初は台湾財務省に配属されました。現在は台湾の弁護士として活動しながら、早稲田大学で国際経済法と国際投資法を専攻しています。

会長退任にあたって 三村 達



私が台湾から日本に戻ったのは2008年4月で、戻ってしばらくしてから早稲田大学校友会日台稲門会にお誘いだき、幹事、副幹事をした後、2017年からは日台稲門会会長として6年を務めさせていただきました。その間、新型コロナウイルス感染拡大があり、講演

会の開催等の活動もなかなか思うに任せなかった時期もありましたが、オンラインでの講演会の実施やオンラインと対面を併用した形での開催等、工夫を凝らしながらなんとか日台稲門会の活動を続けてまいりました。

今後は根本新会長のもと、日台稲門会の会員にとって入会する価値のある稲門会として活動していけるよう頑張っていってほしいと思います。

なお、今後は顧問として日台稲門会の活動に少しでも貢献できるようにしていきたいと考えております。

3期6年、幹事の皆様のみならず、会員の皆様にはいろいろとお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

幹事長退任にあたって 梶山 憲一



私が当会の「幹事長」の仕事を担当したのは、およそ5年前でした。

事情があつて前幹事長が任期半ばで退会されたため、「幹事長代理」に突然任命され1年、その後「幹事長」となつて2期4年間務めました。この間の過半は、コロナをめぐる異変で、会の活動は今までとはけつこう異なるものでした。

月例の幹事会はリモートが主となり、講演会は思うに任せず、総会も議案書を会員・会友にメールで送って、可否を問うようなかたちとなつたりしました。

こうした状況から、世界が大きく様変わりしていることが見えてもきました。

日台をめぐる国際的環境も刻々と変化しつつあり、日台交流の深化を目指す当会としても、その変化により敏感であることが求められています。

当会は、当会自身が主体となつて政治活動を行う団体ではありませんが、政治的な状況についても認識する必要があります。のは言うまでもありません。その当会の考えを具現化したのが、2022年の春季と総会時の講演会で、小笠原先生、佐橋先生という碩学をお招きし、ウクライナ戦争とからめてアジアの状況を語ってもらったわけです。

私は、台湾をテーマにした出版物（美術書、歴史書、雑誌など）の編集者であつたという関係から、以前より台湾と米国を中心にメディアなど国外の情報に広く触れてきました。

このたび私は幹事長を退任しましたが、常任顧問として、これらの情報の提供や、幹事のサポートをしていきたいと思ひます。

会員・会友のみならず、これからよろしくお願いいたします。

事務局長退任にあたって 藤本 篤志



当時、私の上司であつた山崎幹事に、日台稲門会に連れて来られたのが8年前になります。

早稲田の卒業生ではない私が幹事になるという流れになつてしまい、正直戸惑いました。しかし、当時の幹事長であつた三

村前会長の、「台湾好きうじゃあ、良いんじゃない？」という一言に日台稲門会の懐の深さを感じ、気が付けば事務局長まで務めさせていただきました。

私が、産休に入られた川村由紀元事務局長の代理として事務局を任されたのは、ちょうど『コロナの3年間』に当たります。

失礼ながら、決して若くはない幹事や会員・会友の皆様が、様々なデジタルツールを駆使して日台稲門会を拡大させたのを間近で見、感嘆を覚えました。幹事会はオンラインで毎月開催され、講演会はオンライン併用で寧ろ参加者が増えました。更に、コンテンツを増やすために毎月会報がメール配信され、日本国内だけでなく台湾にも会員が増え、会の若返りも進みました。

まさしく、『挑戦し続ける人たちは、ピンチをチャンスに変える』力を持っています。

私自身が経営する会社も、この逆境の3年間に台湾企業やウクライナ企業との取引が始まり、チャンスを掴みつつあります。これからも、挑戦し続ける日台稲門会の会友の一人として、皆様と共に精進してまいります。



■第27期定期総会

2023年6月10日(土)、早稲田大学早稲田キャンパス26号館(大隈記念タワー)多目的ホールで総会を開催。総会の議長は会則に従い、三村達会長が務めた。2022年度の事業報告、決算報告を行った後、23年度の事業計画案、予算案、役員に関する議案を提示し、会場からは「異議なし」との発言や拍手による賛同が示され、すべて原案通り承認された。特に役員案(第5号議案)の承認をもって、会長に根本宏児副会長、副会長に渡邊義典幹事、幹事長に丸山弘子幹事がそれぞれ信任された。いずれも会則に従い、出席者数の過半の支持を得たものである。なお、5月に日本政府が新型コロナウイルス感染症を5類指定し、状況が沈静化したこともあり、本年はコロナ禍前と同様の現地会場のみの総会となった。

定期総会に続けて同会場で行われた記念講演では台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表を招き、「中日関係の現状と見通し」と題して講演いただいた。講演会ではまず司会を務める丸山弘子幹事長が謝代表への歓迎の言葉を述べ、根本宏児会長が挨拶を行った。謝代表は講演で自身が代表在任中で深化した日台関係や懸念される台湾有事への考えについて説明された。質疑応答も7名から行われるなど活発な議論も展開された。続いて産経新聞元台北支局長で東京国際大学の河崎眞澄教授による謝代表に関する講話があり、謝代表の経験や河崎教授との交流などを引用されて謝代表の知られざる一面を共有された。聴講者数は86名。

講演会後には大隈記念タワー15階の「森の風」にて懇親会「日台交流の集い」を開催した。会員・会友や一般の参加者、WTS Aの留学生ら計62人が出席。コロナ禍があったこともあり、中には久々の再会を祝す人もいて、盛会だった。

た。根本宏会長らによる新役員による挨拶や新入会員の紹介が行われたほか、記念撮影や校歌斉唱などリアルイベントならではの活動も展開できた。リアルな場で行われる交流や緊密なコミュニケーションの重要性が再認識された。

(劉彦甫 記)



謝長廷代表講演

■WTS A (早稲田台湾留学生会)

◎WTS A会長・政治学研究科修士2年生 潘 亮廷



この記事はN12022年10月号掲載のもの、役職などは当時のものです。

2022年度早稲田台湾留学生会の会長(当時)を務めております潘亮廷と申します。現在は早稲田大学政治学研究科に所属しており、修士課程の2年生(当時)です。

早稲田大学異文化交流センター(以下ICC)は2006年に設立され、文化と国境を越えたイベントを通じて、グローバル化による新たな価値観や文化を学生達に提供するのがICCの主な活動目

的となります。私は2021年11月から学生スタッフとしてICCに所属しています。

ICCは学生スタッフが組織の中心となり、国際交流に関連するイベントの企画や運営をするセンターです。コロナ禍になる前は、年間約250人の学生が参加していました。こちらで活動する学生スタッフのルーツは多様であり、半分以上で毎年だいたい1〜2名の台湾人留学生スタッフがいます。私がICCに入るまでの台湾人留学生が主催する台湾関連のイベントは大変興味深く、意義のあるイベントばかりでした。台湾原住民文化の紹介をする「台湾ナイト」やタビオカドリリンクで有名な春水堂と共同開催するタビオカ&小籠包の手作りイベントなど。台湾と言えば、夜のグルメを思い浮かべたい。他には様々な夜市グルメ試食やゲーム体験イベントが開催されていました。

ICCに入った私も台湾文化を宣伝できるイベントを考えておりましたが、残念なことにコロナ禍で色々な制限がかかっており、イベント開催に至るまでは困難な状況が続いていました。

その時に助けてくださったのが、早稲田大学留学センターの江正殷先生でした。江先生のご紹介で、私は誠品生活日本橋と共同でイベントを開催することができました。今回のイベントでは、誠品生活日本橋のほか、阿原(ユアン)や郭元益などの台湾企業も協賛してくださり、多様な台湾要素が入ったワークショップ形式のイベントを企画することができました。阿原が提供する手作り石けん体験と郭元益が提供する台湾クッキーペインティング体験を通じて、参加者に食べ物以外の視点で台湾を知るきっかけを提供す

ることを心がけていました。

コロナ影響の中、今回のイベントを通じて故郷台湾の文化を宣伝できたことに大変嬉しく思っております。ICCは多種多様な文化交流や台湾の国際的な立場に理解を示していますが、中国と政治的に関わる国や地域の問題に関してはまだまだ改善する必要があるのではないかと考えております。

今回の台湾イベントの企画過程では、イベント内容は台湾の国際状況のような「敏感な」議題に触れないでほしい、台湾の歴史や政治に関連しそうな内容を避けてほしいなどのルールがありました。また、ICCの例年イベントである「日中韓Cafe」では、日本と中国、韓国出身の留学生に交流の場を提供するが、台湾や香港出身の留学生の参加は禁止され、イベントスタッフとしての参加も禁じられています。このように意図的に「敏感」地域からの留学生のイベント参加を制限することに私は残念に思っております。

台湾、香港さらには、沖縄は東アジア国際関係の周縁部に位置しているが、これらの周縁部を抜きにして東アジア国際関係の歴史と視角は完全かつ多面的と言えるだろうか。これはICCだけの課題ではなく、おそらく日本社会のこうした問題に対する姿勢が反映されていると考えております。今後、ICCがこの問題に率先して、文化交流を通じて、解決の道を切り開いていくことを期待します。

台湾の学生としてICCで働けることをとても嬉しく思っています。また、ICCのスタッフの全員も異文化交流を促進することを強く使命としています。ICCでは、学生以外の方も参加できる

イベントを開催することもありますので、稲門会の先輩方のご参加も心よりお待ちしております。



ICC X 誠品生活日本橋
早稲田大学 Workshop

◎日台交流会に参加して

政経学部2年 楊回柔



この記事はN12022年11月号掲載のもの、役職などは当時のものです

日台稲門会の皆様、初めまして。私は2022年 早稲田台湾留学生会会のイベント計画部(活動部)に所属している政治経済学部2年(当時)の楊尚柔と申します。今回は、昨年(2021年)7月に開催した日台交流会について報告いたします。

今回の日台交流会では、早稲田大学中国語学習会チャイ研の皆様と共に、参加者が台湾と日本の文化を互いに学びながら、台湾語、中国語、日本語を練習する場、外国人の友達ができる場を提供した

いという思いで今回のイベントを共同企画させていただきました。

イベントでは、アイスブレイク、日台文化についてのディスカッション、台湾お菓子(菓子の紹介・感染防止のため、台湾お菓子の試食は教室ではなく、参加者の皆様に持って帰ってもらいました)という二つのセッションを用意いたしました。アイスブレイクは雰囲気盛り上げ、参加者同士は自己紹介とゲームを通して、すぐに打ち解けられました。ディスカッションでは、日台ファッション、教育システム、食文化など、異なるテーマを参加者に用意しました。

会場では活発な議論が交わされ、日本出身、台湾出身の参加者がお互いの文化に対する熱意が伝わってきました。

ディスカッションの後に、各グループにディスカッションした内容を発表してもらいました。日台の夜食の違いや大学生のデートの仕方、地方によって異なる食文化など、様々な文化の違いを発見できたことが、主催側にとっても大変嬉しいことです。

イベントの最後には、参加者全員に台湾の伝統的なお菓子(鳳梨酥、麻花捲、牛軋糖と飲み物・蘋果西打)を参加者にプレゼントしました。食べることは直接的な文化体験はないでしょう！

イベント終了後、参加者の皆さんからたくさんコメントと感想をいただき、一番多いコメントは、今回のイベントを通して日本・台湾の友達ができたこと、お互いの文化を知れたことがとても楽しかった、というコメントです。

また、コロナ禍の影響で、今回のイベン

トは実は2022 早稲田台湾留学生会にとつての初めての対面イベントでした。参加者の皆さんから好評をいただき、大変嬉しく思っています。

このイベントの開催にあたり、本会を代表して外部組織と共同企画することや、内部とコミュニケーションを取る方法、感染防止を含め参加者への配慮の仕方など、予想以上に多くのことを学びました。イベント開催の過程で、チームとして一緒に仕事をし、学ぶことができたのは、とても楽しかったです。もちろん、心細い時もありました。イベントはうまくできるのか、細かいところは見落とししていないのか、とずっと心配でしたが、その分、一生懸命にイベントを成功させようという気持ちが強くなってきました。このご時世で対面イベントを開催するため、予測外のトラブルもありましたが、早稲田台湾留学生会のメンバーたち、そして共同でイベントを企画してくれたチャイ研の皆様のおかげで、これらのトラブルを乗り越えることができました。今回のイベントを通して、参加者から好評をいただいたことが、主催側として達成感を味わうことができ、これからイベントの質を高め、留学生の力で日本と台湾の友好関係を継続させることを目標としています。



■台湾校友会

2022年11月19日(土)に台北市信義區松壽路の新光三越信義新天地A9館8樓において、3年ぶりとなる2022年台湾校友会総会が開催され、早稲田大学からは田中総長、また校友会からは萬代代表幹事、台北稲門会からもたくさん出席されました。日台稲門会からは江先生を始め、萩原名譽顧問ご夫妻、小川幹事など計6名、そして遠州稲門会(浜松)も参加されました。



◎桃園神社を訪ねて

名譽顧問 萩原伸一



昨年11月の台湾校友会総会翌日、校友会主催の桃園觀光ツアーに参加しました。桃園県は国際空港以外あまり馴染みがなく、新しい台湾発見が出来た記憶に残るツアーでした。

バスの車中で台湾校友会の鄭文哲さんが、「桃園神社」について熱く紹介され、到着前から一層の興味が沸きました。神社の

石門は「桃園県忠烈祠」と記されており、したが、参道から先は本堂、拝殿、手水舎など日本の神社そのものでした。日本統治時代、全ての町に神社を創建する計画のもとに台湾には200を超える神社があったそうですが、1938年創建された桃園神社が現在台湾に残っている唯一の神社です。

日台の国交断絶以降、国民党の強い反日感情により様々な日本建造物が排除、破壊されましたが、桃園神社だけは周辺住民や文化人の反対運動で保存することができました。その反対運動には、前述の鄭文哲さんも参画していたそうです。老朽化により中国風宮殿への再建計画もあったそうですが、強い世論の反対があり、改修工事はスギ、ヒノキをふんだんに使用し、無駄な装飾を排した日本神社建築の特徴が生かされた形で保存されました。技術指導に日本から宮大工の協力もあったと伝えられています。表情がチョット異なる狛犬、腹に菊の御紋のような模様のある青銅馬などもありました。

台湾では見られない高床式で優美、独特な雰囲気を出している桃園神社ですが、このような形で保存できたのは、親日家が多いからという言葉では片づけられないと思います。誰が作ろうが良いものは良い、保存しなくてはならないという台湾人の強い想い、地元の風景を守るという郷土愛が為せたことではないでしょうか。

今は、戦没者を祭る忠烈祠として、又、端午の節句時期には多くの鯉のぼりが舞う神社として市民に愛される場所になっています。

この名物は、台湾スイーツの定番「豆花」と護符である「御札」だそうです。豆花は私の好物なのですが、残念ながら店が混んでいて賞味できませんでした。なぜ御札が名物なのか不思議でしたが、勧められるままに買いました。何と、お札には「大丈夫」と書かれていました！ 台湾駐在時、何か問題があつて尋ねるとよく「没問題(問題ない、大丈夫)」と言われたことを思い出しました。近年、日本経済の低迷、厳しい世界情勢など暗い話題に満ちていますが、この御札のように大丈夫、没問題という穏やかな気持ちで新しい年を迎えることも必要ではないでしょうか。



御守



豆花

写真：旅 Pocket



桃園神社の鳥居 双十になっている

百貨店カードのファーストクラス。 タカシマヤカード《ゴールド》会員募集中



■今日のお買物からポイントがつく臨時カードをすぐ発行！

タカシマヤでのショッピングに最大 **10%** のポイント、タカシマヤ以外でも **1%** のポイントをプレゼント。

新宿高島屋10階 タカシマヤカードカウンターまたはタカシマヤカード《ゴールド》インフォメーションセンター0120-720-899 (午前9時～午後6時)

※入会初年度は8%。1年間のタカシマヤでのご利用金額が100万円(税抜)以上で、翌年度のポイントが10%にアップします。

※一部ポイント対象外またはポイント率の異なる店舗・商品・お支払い方法がございます。

Takashimaya SHINJUKU

〒151-8580 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-24-2 TEL 03-5361-1111
営業時間: 午前10時30分～午後7時30分



■台湾からの便り(この一年のニュース)

台北樞門会 斎藤征二



斎藤さんは毎月、当会ニュースレターに現地にいないと分からない台湾の現状を分かりやすくレポートしてくれています。

(2022年4月) 台湾の航空会社が好業績 特に貨物輸送に力を入れた中華航空は2011年以来の最高利益。

(5月) 4月急速にコロナ感染者が増え、4月10日は一日だけで5万人。

(6月) ・知り合いの息子さん、中国からヘッドハンティングを受ける。愛国心と所得の狭間で苦悩(年収2000万円)・海外旅行したい国 日本が一位

(7月) 台湾の電力目標 ガス5、石炭3、再エネ2。しかし現状は日本より厳しい。

(8月) コロナ感染 7月21日は2万5千人。1月から7月中旬までで431万人新規感染。

(9月) 8月に台北樞門会、懇親会再開

(10月) 観光業、水際対策緩和を歓迎

(11月) 統一地方選まであと1か月

(12月) 民進党大敗 ただし、総統選挙とは別と人々は考えている。国民党も前回のミスをやに勝って兜の緒を締めよと。

(2023年1月) 昨年の十大ニュース
①台湾海峡の緊張高まる、②統一地方選で民進党大敗、③水際対策を緩和、入境時の隔離不要に、④TSMC、米工場の投資拡大、⑤輸出が失速、経済成長予測も下方修正、⑥感染拡大、一時9万人超え、⑦日本産食品の輸入規制緩和、⑧台東で地震M6・8、1人死亡170人けが、⑨中央銀行が約11年ぶりに利上げ(1・5%に決定)、⑩米台イニシアチブが始動

(2月) 在台日系企業 「危機感高くない」が6割に

■会員の活躍

◎国際業務を扱う行政書士として

相京浩一



みなさま、こんにちは。日台樞門会幹事で行政書士の相京浩一です。

JR総武線東船橋駅徒歩1分のところで行政書士事務所を構えています。

外国人の雇用、会社設立、家族の呼び寄せ、国際結婚、永住などに必要なビザ(在留資格)申請などの国際業務を専門に、各種許可の書類作成及び代理申請などの業務をしています。

2021年4月からは、外国人労働者の雇用管理の改善に関して、事業主が適切に対応するためのアドバイスや援助を行う外国人雇用管理アドバイザーも務めています。

ています。

外国人が日本で生活や仕事をするためには、活動内容に応じた在留資格、または日本人の配偶者等などの身分に基づく在留資格が必要です。日本に在留して一定の要件を満たすと、永住許可申請をすることが出来ます。永住者になるとその活動に制限がなく、在留期限も無制限になります。

当事務所は、日本にいられた外国人、日本で生まれた外国人の方々が、安心して日本で生活や仕事ができるよう、呼び寄せから永住にいたるまでのビザ(在留資格)申請や日本国籍取得のための帰化申請をお客様と面談させていただき、様々なケースに応じたベストなご提案をしております。

信頼される行政書士として、実務の経験を活かし日々専門性を高めています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

◎WTS A出身、東洋経済新報社記者

劉彦甫



劉記者の1年間の台湾関連記事を紹介いたします。(出所明記の場合以外は、すべて東洋経済新報社)

(2022・2月)

・ウクライナで「台湾侵攻」の可能性は高まったのか

(8月)

・ペロシ議長を歓迎した台湾に残された爪痕と自信

・台湾包囲の軍事演習で中国が抱えたジレンマ

・「地政学」だけで説明できない台湾の半導体投資

・台湾の産業育成政策「半導体の次」に定めた照準

(10月)

・台湾人はなぜ地方選で親中政党を支持するのか

(12月)

・国民に嫌われた台湾与党「民進党」は復活できるか

(2023年3月)

・日経の連載はなぜ台湾から抗議と批判を受けたか

(4月)

・台湾カリスマ経営者郭台銘氏の政界リベンジが起こす波乱

(5月)

・時事通信 台湾は東アジアの火薬庫か 米中覇権争いの最前線を読み解く

・毎日新聞 海峡有事と沖縄、台湾

■台湾関連本

◎『台湾流通革命』(佐宮圭、ちくま書房)(2022・7)



意外と知られていないのが流通分野における台湾の発展です。

伝統市場でしか買物の習慣がなかった台湾に「流通」という概念を持ち込み、小売・卸・物流そしてそれを近代化するITシステムを整備するなど一大コングロ

マリットを築き上げた徐重仁氏の歩みとその経営理念を記した書籍です。40社を超える台湾最大の統一流通グループを率いて「台湾流通の父」とまで言われるようになったのは、オーナー経営が多い台湾では珍しいことです。特に台湾セブンイレブンは五千店舗(日本は二万店舗)を超え人口当たり店舗数では世界一の規模にまで成長しました。

会社の利益のみ迫及する「自利」ではなく、会社関係者そして社会の利益「利他」の気持ちで経営に徹する徐重仁氏の人柄とその経営理念を知る事ができる書籍です。(萩原伸一名譽顧問 記)

◎『台湾有事は十分に抑止できる』
(小笠原欣幸、『Voice 3月号』
(2022年2月PHP研究所



中国は、台湾統一に強い意志をもっているが、ハードパワー(軍事力)での対抗以上に、ソフトパワーにおいて台湾の存在感が高まっており、さらに蔡總統の国際世論へのアピールが効果を発揮して、中国の攻勢を抑止できるとしている。また日本中国に対する配慮から国際社会の問題は日本の立場を主張し、不合理の場合は反論するという、外務省のスタンスが従来と違ってきていると指摘している。

(橋本紀明 記)

◎『台湾問題は日本問題』
(岡崎久彦、海電社)(2008・5)



故岡崎久彦氏の台湾について分析した名著。2008年の刊行だが、今読んでもなるほどと思われるところが多い。特にアメリカの過去の発言ミス(判断)による影響については参考になる。米のアフガン撤退時の失態、ウクライナ危機前に(核報復による第三次世界大戦の恐れがあるため)米はウクライナに兵を派遣しないと宣言し、ロシアの侵攻を許すことになるなど、現在も氏の考えは通用する。(橋本紀明 記)

◎『トオサンの桜台湾日本語世代からの遺言』(平野久美子 産経NF文庫)



戦前、中学、高校そして大学で日本式教育を受けた人たちがその子供世代はトオサン(多桑)(父さん)と呼ぶが、頑固あるものの、戦前習った教育勅語や日本精神、そしてビンタを高く評価することに驚いた日本人は多い。トウサン世代はそういった教育の裏にある本質を切々と日本語で日本人に訴えた。日本語と日本

人であったことに誇りを持っている人が多い。本書では、桜に象徴される「日本的なるもの」を今の日本人は忘れてはいないか、元日本人として生きた自分たちを知ってほしいと切々と訴える。(橋本紀明 記)

◎『台湾民主化の闘士 謝長廷と台湾と日本』

(河崎眞澄 産経新聞出版4月出版)



昨年、産経新聞に掲載された『話の肖像』などを基に書かれた本。コロナ禍の中、ワクチン獲得に奮闘。雨の中、台湾に向かう飛行機に向かって深々と頭を下げる謝代表の姿。また個人的には、台湾駐在中に白冰冰(バイ・ピンピン)さんの娘さん誘拐殺害犯に投降を促したのが謝長廷氏だったと知って、当時心配で心配でテレビにくぎ付けになったことを思い出した。本書を読んでいて、謝朝廷代表の政治だけでなく、生き方に対する考えがはつきりわかった。一読に値する。(橋本紀明 記)

■台湾映画・ドラマ

◎『華燈初上 夜を生きる女たち』



写真: Netflix, Asukal Wonderland

1988年の台北・林森北路の日本風ナイトクラブが舞台の台湾ドラマ。人気の高い日系ナイトクラブを舞台に、夜の蝶たちの嫉妬や傷心、友情、恋を通して、愛憎渦巻く女の世界が描かれる。

◎『茶金 ゴールドリフ』(川村由紀幹事 推薦)



(写真: SPOエンタメ倶楽部)

戦後の台湾製茶業界を描いたドラマ。時

目まぐるしく変わってしまう時代にどんな困難が主人公たちに降りかかり、毎話毎話ハラハラさせられる。そんな時代の波に翻弄されながらも、何とか知恵で乗り切ろうとする娘の意気、なんだかんだ言いながらも彼女をサポートする父の福吉。お茶のビジネスをわかっているいと厳しい言葉を浴びせながらも、意心のビジネスセンスには一目置いている様子がうかがえる。昔ならではの価値観に登場人物たちは振り回されていく。

◎『時をかける愛(原題《想見你》)』
(川村由紀幹事 推薦)



(写真：BS11)

台湾で2019年から2020年に放送され、非常に話題になったドラマです。過去の別人になってしまおうというタイムリープもので、2019年の台北と1998年の台南が舞台となっております。ストーリーももちろん面白いのですが、大好きな台南の情景が拝めたのも良かったです。伍佰の『Last Dance』という曲がストーリー上、重要な役割を果たしており、劇中で何度も使われるのですが、頭から離れなくなる曲です。

■台湾時代の思い出

芝山巖 芝山巖學堂 六十先生の墓
渡邊義典副会長



二度目の台湾駐在の時(2004年から2009年)「士林區雨聲街」に住んでいました。アパートの近くに芝山巖という公園があり、有史以前の考古時代の遺跡から清朝時代、日本統治時代を経て、現在に至るまでの台湾の重層的な歴史がびっしり詰まっています。さまざまな遺跡や記念物、建物には詳しい由来が書かれており、化石や3000年以上前の先住民の骨や土器などが発掘されていて、『芝山巖文化』と呼ばれています。原住民の時代には「八芝蘭」と呼ばれていたそうです。そこには「八芝蘭竹」という固有種の竹が自生していて台湾リスが多く生息しています。

清になって岩山の西方に「芝山巖忠濟宮」という道教、仏教、儒教の三教合一の廟が開かれました。ここは別名「開漳聖王廟」と言い、唐の時代の官吏である陳元光を祀っています。陳元光は唐末期に福建省漳州で先住民を平定して漢族の福建への移民開拓の基礎を築きました。芝山の地には漳州移民が多かったので漳州開拓の祖を祀って清の乾隆17年(1752年)に開廟され、250年以上の歴史のある由緒ある廟です。

芝山巖については、若林正丈先生の『台湾へ変容し躊躇するアイデンティティ』(ちくま新書2001年1月刊)の冒頭に、台湾の歴史が凝縮された象徴的な場所として書かれています。巖學堂(今は読書室という小さな平屋の一軒家)から恵濟宮へ向かう遊歩道の脇に

「同帰所」と大きく書かれた公墓史跡があります。「同帰所」という「公墓」はこの地で行き倒れた人や「分類械闘」で戦死した人などの無縁仏を合葬して祀っているお墓です。行き倒れとはどんな事情なのか?と調べるに当たって清朝時代の台湾の様子がいろいろとわかってきました。大陸から台湾へ来た人は極端に男性が多くて、身寄りもないために食を得る目的であちこちさまよっている人が多かったようです。この人たちのことを「羅漢脚」といったそうです。田畑や家も持たず、決まった職もなく、もちろん妻子もなく、賭け事、盗み、武力抗争に明け暮れる流浪の生活で、終日、はだしで外観が仏僧の羅漢に似ていることからこのように呼ばれたそうです。行き倒れの無縁仏も多かったと想像されます。知人から「有唐山公 無唐山媽」という言葉とその歴史的な意味も教えてもらいました。そしてしばしば武力衝突が起き、原籍地の別などによって戦った「分類械闘」、閩粵械闘や漳泉械闘など、あるいは清の役人に対して「三年小乱 五年大叛」のように反乱が頻発した時代でした。特に「林爽文の乱」(1787年)では芝山巖が戦場にもなったそうで、ここで亡くなった人たちの骨を集めて合葬したのが「同帰所」の始まりだったそうです。

このころの歴史を知ると台湾の根っこところが少しわかったような気がします。芝山巖東方の芝山巖學堂(今は読書室)の一段下の平地に「学務官僚遭難之碑」という2メートルを超す大きな石碑がありました。

この碑は1896年に時の首相・伊藤博文の台湾視察の時に揮毫して建立されたもので、碑面の文字は風化して読み取るのが困難ですが、かろうじて判読できる内容は下記のようなものです。

1895年(明治28年)に台湾総督府に学務部が設けられ「殖民地教育」に

着手しました。日本語教育のために内地から志願した教員7人がこの地へ来て「芝山巖學堂」を建て日本語の教育を始めたのでした。なかなか日本統治になじめない台湾の人たちの中からやっと31人の学生を集めて日本語の授業を始めたのでした。しかし日本に対する反感はやまず、翌年1月1日に総督府の新年会に参加するために芝山巖を出た6人の教員が待ち伏せ襲撃に遭い、殺されてしまいました。この事件に因み日本統治時代は芝山巖神社が建てられ教育の聖地とされた6人の教員を顕彰するために建てられたのが「学務官僚遭難之碑」です。碑文は経緯の説明と功績をたたえ殉職した6名の身分・氏名を刻んでいます。「群馬県平民・中島長吉、東京府平民・桂金太郎、山口県士族・井原順之助、山口県華族・楢取道明、熊本県平民・平井数馬、愛知県士族・関口長太郎」と読めます。そして「内閣総理大臣・大勲位公爵・伊藤博文」という署名も読めます。どうして100年以上も昔の、しかも日本時代の石碑が今も残っているのか、案内板にはこう書かれています。

事件の経緯の説明の後、

「戦後になって植民地化に反抗した人たちの事績を記念して『芝山巖事件之碑』が建てられた。しかし2001年に公園整備のためこの碑を別のところに移すとともに、草叢に放置してあった『学務官僚遭難之碑』をもとの位置に建て直した」と説明し、さらに「歴史認識は立場によって違う。我々は事実のみを国民に知らせるために『原地保存の原則』によってこの措置をとった」と記されています。

また、公園の歴史を説明した別の案内板には「この地に日本の植民地化初期の頃『日本語伝習所』があった。『芝山巖學堂』と言い、次いで『国語学校第一付属学校(国語とは日本語のこと)』となり、さらに『八芝蘭公学校』と連綿と続く学校の歴史が説明されています。

さらに別の案内板には

「昔この地は『八芝蘭』という地名であった。日本統治時代にここに学堂を建てた。ここから多くの『士』が『林』のごとく輩出することを理想として『士林』と呼ばれるようになった」と地名の由来を説明してあります。

それで私の住む「士林区」の由来を知った次第です。芝山巖山上の読書室（学堂の跡地に建てられている）の裏手には石碑を破砕した破片が散乱していました。その石碑を読んでみると、日本統治時代に台湾で殉職した教員の顕彰碑であると思われまふ。日本人、台湾人の区別なく姓名が彫られています。ここは、戦前は教育の聖地として神社が建てられていたの、戦後に壊されて石碑類もすべて破砕されて遺棄されたものと思われまふ。「学務官僚遭難之碑」とその由来を書いた案内板は2004年頃の思い出です。当時は民進党の陳水扁政権の頃でした。

その後、2008年の国民党の馬英九政権以降には、「学務官僚」石碑のそばに再び「芝山巖事件之碑」が建っていました。「6人の日本人学務官僚を襲撃した人たちは抗日英雄である」と称えられていました。戦前の碑と戦後の碑が正反対の内容で同じ敷地内に並立している光景は歴史を考える重い遺跡だと思います。この敷地から恵済宮の方向へ進む道の脇に「六氏先生之墓」という黒御影石の立派なお墓があります。日本のお墓と同じ形です。その墓石の下の段にそれぞれの名前が刻まれた六つの位牌がおかれています。毎朝の散歩のときに私はお墓の前で手を合わせていました。この立派なお墓は地元の「士林国民小学」の卒業生たちが中心になって建立されたとのこと

です。雨でない日は、早朝からご老人たちがこのお墓のそばでお茶を飲んでいました。私はおそろのお茶を飲んで挨拶して話しかけてみました。そうするとご老人たちも日本語で「士林国小の戦前の卒業生たちで、墓守を兼ねて集まってお茶を

飲んでいる」とのことでした。

芝山巖学堂から始まって士林国小となり、その卒業生たちが中心となって「六氏先生之墓」を建てて、そして今も墓守をしておられるということにわたしはすっかり感動したのです。

ある年の早慶新春聯誼会で李登輝元総統が講演で「六士先生」の話をされ「台湾にしっかりとした教育制度があったからそれを基礎として台湾が発展した」という趣旨のお話をされ、「私（李登輝氏）は日本から来た人を何度も芝山巖へ案内した。しかし、それを知らない人ばかりだ。先日森元首相が来られたので案内したが、山上（山頂）に上がるまでに森さんは息が切れてフウフウ言っておられた。森さんも六士先生のことをご存じなかった」とお話しされていたことを思い出します。

私が雨聲街に住んでいた当時（2004年〜2009年）の初期のころ、芝山巖内の遊歩道を歩くと、道路わきに緑色のペンキが塗られたボロボロの小屋のような小さな木造の建物がいくつも点在していました。ドアが壊れているものが多く、中を見ることができのですが、人が一人は入れるくらいの空間で、中には何もありません。

一体これは何なんだろう？と不思議に思っていました。2008年ごろにはこれらの小屋はすべて取り払われていました。

また、芝山巖読書室から東へ下ったところに、崖の上に突き出した半円形の頑丈なコンクリート造りの場所があります。見晴台のようです。ここは一人で体操するのにちょうどよい広さで、いつも誰かが体操をしています。たまに無人の時は私も半円形の先端に行つて景色を眺めたりしていました。対面には円山飯店の裏側に続く小高い山の端が見えます。私はてっきり見晴台だと思っていました。

しかし、後日、地元の物知りの人に聞くと、とんでもない思い違いでした。先ず、遊歩道の脇に点在しているボロボロの小屋は、戒厳令時代は歩哨の詰め所で、当番歩哨が銃を持って24時間立哨していたそうです。

そして見晴台だと思っていたコンクリート造りの半円形の張り出しには大砲が据え付けられていたそうです。士林官邸防護のための軍事施設だったそうです。

そういわれてみると士林官邸は目と鼻の先です。蒋介石総統、蔣経国総統の頃の芝山巖は士林官邸を守る重要な軍事施設だったのです。言われてみると、円山飯店の裏から極秘のトンネルが掘られていて芝山巖の対面にその出口がある、という噂を思い出して、なるほど！ここが士林官邸守備の重要ポイントだったのかと納得しました。

雨聲街のあたりは士林官邸警備の士官や兵の官舎が多かったとのこと、住んでみると静かな街で、戸建ての邸宅がいくつも並んでいるところでした。

私が懇意にしていたタクシードライバー（うんちゃん）に「お前はどのようにして中国人ばかりのところに住んでいるのか？」と聞かれたことがあります。しかし、住んでいる雨聲街に全く違和感を感じなかったため、私は質問の意味が分からずキョトンとしていました。



圓山大飯店から雨聲街

■カラスミとハタ

橋本紀明

以前、産経新聞の『話の肖像画』に高校の先輩が出たことがあり、以降よく読むようになった。台北駐日経済文化代表処の謝代表の時（2021年9月）も、駐在時にあった事件を知っている者として興味深く読ませてもらった。

7月は、さだまさしである。彼の歌『朝刊』にカラスミが出てくる。学生時代、カラスミがボラの卵巣であることはわかった。ただ、どんな食べ物か分からない。いつか食べてみたい、そんな夢だけが膨らんだ。新人工場研修に参加した時に、工場の処理済み水の排出口にたくさんボラの幼魚が集まっていたのを見た。ボラを見たのはその時だけで、肝心のカラスミは何年経っても私の前に現れなかった。

しかし、1993年に台湾担当になってから、台北の欣葉で初めて見た。酒の肴としてはおいしいようだった。ただ、ほとんど下戸の自分でも、ウーロン茶と一緒に食すると塩味でもぐもぐして不思議な味であった。カロリーは高いだろうけど・・・。

でも、これを普通に食べている台湾の人はなんて幸せなんだろうかとも思った。

日本に戻ってきてからもカラスミは、居酒屋のメニューになかった。製造コストが安くて、かつカロリーの低い代替品が出てくるまでは、日本では食べ物は無理だろうと思った。日本には代替イクラがあるくらいだから、円安が続けば、代替カラスミも可能かもしれない。



2000年代初頭、中東のUAE（アラブ首長国連邦）にいた時にUAEの国民



魚であるハタ（現地名 ハムール）をよく食べた。

自分には、ハタというよりクエと言った方が、なじみ深かったたので、現地の小さなハタ（大きくても50センチくらい）を見たときは、本当に本物かと疑った。UAEは、インド洋に面しているため朝捕れたハタは陸路でドバイのフィッシュマーケットまで運ばれてきて棚に並ぶ。

味は鯛のようなが、少し粘り気があり、おいしいので刺身や寿司でよく食べた。

ドバイのモールではよくショーをする。電子バイオリンのショーの時は、バイオリンを習っていて、当時小学1年生だった息子が「パパ、あれ、ニセモノだね」と言った時、ふと思いついた。

「そうだ、UAEのハムールは日本人からして物足りない。福岡の大きい本物をモールで捌（さば）けば、みんなびっくりするのではないかと。」

（ヨーロッパ人には難癖を付けられるかもしれないが）なんでも目立つことが大好きなドバイなら喜ぶような気がした。また魚なのでハラルの問題もクリア出来るし・・・。

台湾産ハタの日本輸出が苦戦しているというニュースを見て、その時の構想を思い出した。ドバイのショーは、その後どうなったか、少し気になった。

■早慶ゴルフ

春季対抗戦（5・20 習志野CC）

早稲田勝利

日台早慶ゴルフ物故者を偲ぶ会（7・8 東レ社員クラブにて）

秋季対抗戦（9・29 習志野CC）
参加27名 3打差で慶応勝利



9月29日 習志野カントリーにて

恒融® 智慧財産事務所
智慧財産股份有限公司



CMC® Intellectual Property Firm
Intellectual Property Inc.

Address: 台湾105台北市松山区南京東路三段287号6階 / 6F, No. 287, Section 3, Nanjing East Road, Songshan District, Taipei City, 105, Taiwan
TEL: +886-2-3765-6978 FAX: +886-2-3765-5038 E-mail: chaoming@cmcipfirm.com; info@cmcipfirm.com
Website: www.cmcipfirm.com

2018年3月に台北のオフィス街にて開業以来、大和ハウス工業株式会社、ロート製薬株式会社、KDDI株式会社、アイリスオーヤマ株式会社など日本の得意先からご依頼を頂き、台湾において特許・実用新案・意匠・商標の出願から権利化まで代理を務め、権利行使・活用・調査などに対する助言・サポートにもかかわって参りました。所員全員が大手・中堅特許商標事務所・企業知財部に勤めた経験がありますので、小事務所ながら一流事務所レベルのサービスを丁寧に提供可能です。台湾での知財の権利化、活用にご関心がおありの方は是非ご連絡下さい。末筆ながら皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



恒融智慧財産事務所

代表弁理士 陳 昭明

商標代理人 臼井 進

(<http://www.cmcipfirm.com>)

■マラソンで日本第二位 寺田修さん

早慶ゴルフに参加する寺田修さん。ゴルフだけでなく、マラソンもすごい。2021年度フルマラソン 1歳刻みランキング「男子56歳の部」で第2位記録2時間47分15秒

マラソンで4時間以上の人はジョギング、3時間台の人はランナー。そして2時間台の人はレーサーと呼ばれるが、サブスリー（3時間を切る）はランナーの憧れである。寺田さんは50代後半で2時間47分。すごい記録です。これからも頑張ってください。



■「梶山憲一の街歩き台湾」 北門の「台湾」、東門の「中国」

梶山常任顧問が、「台湾の街歩き」において『街歩き台湾』と題した連載をスタートさせました。

台北市は東路・西路、北路・南路がはつきりしているが、それぞれに歴史を感じさせる建物があることが分かった。忠孝西路にある

「北門」そして仁愛路・信義路と交差する円環の中央にある「東門」、それぞれがしっかりと台北を守る守護神のような感じであったが、北門は南方風の素朴な造りを呈し、東門は中国を象徴するかのような重々しい造りであることを初めて知った。台北の街は深いなあと感じた。

<https://japan.thenewsle.com/article/3545/page2>



北門（左）と東門（右）

■日台橋門会座談会

岩永康久名誉会長×小椋和平常任顧問
聞き手：三村名誉顧問



三村名誉顧問

近年まで商社マンとして台湾に駐在してきた岩永康、小椋さん。岩永康さんは台湾住友商事社長として小椋さんは台湾三菱商事社長でした。その2人が商社マンとしての人生、台湾への思いと活動、そして日台関係への観点を語り合いました。

△総合商社での人生▽



岩永康名誉会長

岩永：学生時代は海外への憧れが強く、何とか行ってみたかった。アルバイトしたが、お金が足りずビザが下りない。それなら海外には会社のお金で行こうと住友商事に入社。鋼材貿易に配属され、ポルトナットの取引からスタート。小さな商品で不本意だったが意外に利益が出て、それをきっかけに1977年から6年間、米国駐在となり、日本からの輸入の仕事をするようになった。当時は、日米貿易摩擦のさなかだった。

小椋：



小椋常任顧問

高校時代から大学院まで早稲田に通

い、理科系専攻だった。私も海外志向が強く英語が苦手にも拘わらず商社を志望し、三菱商事の重電輸出に配属された。当初は中東担当で発電所や大型プラント輸出をやっていた。三菱はイラク市場に強く、1980年にイラクのバグダッドへ長期出張中にイランイラク戦争が勃発した。

△台湾と私▽

・・・・イランイラク戦争での経験を経て、商社マンとしての自覚が深まった小椋さん。やがて活躍の場は台湾です。

小椋：私は連続15年台湾に駐在したが、自分が台湾駐在となった理由は、多分、新幹線や発電所などの大型重電案件のポテンシャルが高かったためだと思われる。当時、日台貿易はアンバランスで、50万ドル以上の入札には日本と韓国は参加できなかった。最初の仕事は、この規制を撤廃させることだった。

・・・・岩永さんは、1988年に最初の駐在、2000年には台湾住友商事社長として台湾に駐在されたそうですが、二度目の台湾はいかがだったのでしょうか。

岩永：2回目の台湾駐在では、日本人会会長を2回、台北市工商会会長をさせていただいた。この日本人会や工商会の代表になることで、日本として民間の立場から、台湾の政府・財界のトップと話し合える関係が深まった。しかし、中国の目覚ましい発展を前にして、日本の政財界は「中国との関係強化は日本の国益であり、中国をへたに刺激しないように」との考え方が強く、台湾との話し合いには慎重だった。台湾の政財界も日本の事情をわかってはいるがゆえに、言いす

ぎないようにと、これまた慎重だった。この「双方の慎重」さは、非常にもどかかった。

・台湾でさまざまな活動する小椋さん。やがて台湾三菱商事の17部門の部長は台湾人にして、日本人駐在員は半減させたとか。いったいなぜでしょうか。

小椋…台湾三菱商事では台湾人の登用に力を入れ、顧客対応は原則台湾人とし、日本人駐在員は本社とのコミュニケーションに注力させた。その結果、台湾三菱商事は2年続けて最高益を出すことができた。台湾人には責任と権限をしっかりと与え、方向性さえ出してあげればモチベーションを高め、良い成果が出せることを再認識した。そして、私の後任は台湾人にした。

・帰国後、岩永さんの台湾との関係はいかがでしょうか。

岩永…駐在を終えて日本に帰ってきたことだが、縁あって早稲田大学で8年間、毎週岩永ゼミの講座を持つこととなった。そしてゼミの仕上げとして、毎年3泊4日で学生を台湾研修に連れていった。台湾では李登輝元総統との面会も組み入れた。3時間に及ぶ話し合いは学生には強く印象に残ったようだ。

△日台関係について▽

・駐在を終えても続く岩永さんの台湾との縁。小椋さんも、帰国後に台湾協会の理事長になりました。今後の日台関係をいかが考えてでしょうか。

小椋…李登輝元総統をはじめ、台プラの王永慶さん、中国信託銀行の辜濂松さん、政治家の江丙坤さんなど、日本語世代のなかでも日台交流を支えた重鎮の

方が第一線から退かれ、亡くなってしまったため、日本と台湾との関係は新たなステージを迎えている。新たに相互理解を深めることが大切となり、日台人材交流としての留学生や若者の育成が重要であると思う。

岩永…台湾に対する全世界的な評価が高まっている。しかし、台湾の将来はどうなのかと考えると、それを決定づけるのはアメリカであり、もう一方は中国だ。中国といえば、英国のシンクタンク「CEBR」のレポートでは、2028年に中国がGDPでアメリカを凌ぐという。この米中の力関係が逆転するという見方は、学者による研究の結果かも知れないが、私はどうも信じがたい。

小椋…台湾海峡緊張の将来予測は難しいが、中国の狙いは無血統合にあると私は考えている。武力行使をもつての統一でないと思う。中国は軍事威嚇によって国民の不安をどんどん増長させ、場合によっては軍の士気も挫いていくという心理戦を展開している。さらにメディアやSNSを活用するなどしてフェイクニュースやサイバー攻撃で内部不安を煽り、台湾内部から切り崩しを図ると思われる。また、あらゆる手を尽くし政権交代を促すことも中国の狙いなのではないかと思う。そこで日本にできることは日米欧との連携により中国を強く牽制してゆくことが大切だと思う。

岩永…これまで台湾との経済関係では、日本から台湾に投資をするということが基本であったが、今回、TSMCが熊本にソーニーと合併で工場を設立する。日本政府もこれに対して相当肩入れしている。台湾と日本は、以前のように日本から一方的に台湾へということではなく、対等な双方向関係になってきている。これをより深めてゆく必要がある。

時代は変わっているといえるだろう。

■特別寄稿

李登輝元総統への墓参 岩永名誉会長



コロナ規制も解除され、6月16日、20日の予定で訪台しました。台北駐在時代に、日台のテニス同好会(養和会)に入り、毎週日曜日に新興中学(林森北路/民権東路)で日台の同好家が一緒にプレイしたものです。

この関係者と一緒に訪台しましたが、私は、別行動をとり、到着日(6/16)午後に李登輝元総統のお墓へお参りに行きました。

私の駐在時(2000年〜07年)、台湾日本人会会長を2回、台北市日僑工商会理事長などを歴任した事もあり、李登輝総統には大変お世話になりました。ご自宅にも何度か呼んで頂き、其の知識の深さ、理想の高さにはいつも感銘したものです。

2007年帰国後、母校早稲田大学にて8年間、「ビジネス現場から見た日台中米

関係」なる科目で、教鞭をとり、毎年ゼミ終了後、学生を連れて訪台し、いろいろな要人との面談機会を持ちました。学生にとり、李登輝総統との面談希望が多く、お頼みしたら快諾頂き、毎年2時間〜3時間のご講話、討論会を持って頂きました。

秘書が、「予定時間は1時間ですから切り上げて下さい」とメモを入れても、「岩永の学生との議論は楽しい。時間は大幅オーバーで構わない」とて、3時間に及ぶ事も度々でした。

李総統のお墓は台北市の東北、五指山山頂にある軍公墓(総統・軍トップ経験者を埋葬)にあり、右手に台北市、正面に基隆港を望む場所に祭られていました。

行く途中は豪雨で夜のように暗く、到達できるか危ぶまれましたが、着いた瞬間に雨はやみ、洗われた自然、台北市、基隆を望む事が出来ました。

既に献花(花輪)が用意されており(写真参照)、感謝の念を込め、参拝致しました。

以前、李総統が私の手を強く握りしめて「岩永くん、日台関係は双方にとつて大切。最早、私は年取った。これからは君ら若者に託するしかない。よろしく頼むよ!」と言われた事を思い出しつつ、

「李総統!私も今や年取りました。次の若者に、少しでも多くの人に、日台関係の重要さを引き継いで行きます。」と手を合わせました。

岩永康久 2023年7月5日



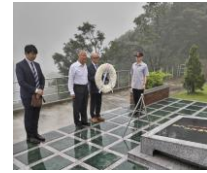
台中日本人学校で



五指山



台湾での功績が評価され2007年に経済褒章を受章（日本人で5番目）



軍公墓

■講演録

◎中華民国台湾100周年記念講演(7・27)

演題:『中華民国台湾の軌跡とこれから100年に向けて』

台北駐日経済文化代表処

謝長廷留日代表

謝代表は、自らの体験をもとに白色テロと戒厳令を通じて台湾がいかに民主化を成し遂げたかを語り、またご自身も映り込んだ貴重な写真のスライドを披露しながら、「野百合運動(1990)」、「太陽花運動(2014)」は若者が自らの力で、国会改革につなげ、台湾の民主化を前進させる組上を可能にしたことを強調されました。

印象的な言葉としては「2022年は日中国交正常化50周年ではあるが、日本と台湾の絆は100年、台南の水道も日本の指導のもと建設されてから100年、高雄駅と改名されてからも100年経つ」と。

「台湾は民主・自由・民権をこれまで大切にしてきたが、それはこれからも変わらない。中国の武力は脅威だが、台湾の民主主義は大陸の人々にとっても良い事例となるであろう」と語られました。参加団体は、日台稲門会・東京台湾の会をはじめ、留日東京華僑総会等各地区華僑団体、福島県磐梯町をはじめとした各市町村、早稲田大学台湾留学生会・中華民國留日東京同學会等30団体以上で、講演会のあとは懇親会が開催されました。

(林森北郎(はやしもりきたろう)記)

◎春季講演会(2022・4・8)



写真: 東京外国語大学

演題:『台湾有事と日台関係』
東京外国語大学小笠原欣幸教授

台湾は、ウクライナと比べて面積で6%、人口で60%と小さいものの、GDPは4・3倍(1人当たりは7・6倍)、貿易額も5・3倍と大きい。ウクライナは主権国家であるが、ロシアは、『ウクライナは兄弟(スラブ民族)でありロシアの一部』と考えているため、安全上の理由からNATO加盟を認めていない。一方、台湾は正式には主権国家ではないが、地政学上、経済上、事実上の独立国家。中国は、『台湾は同じ中華民族、祖国の一部』と考え、独立は許さない、他国との外交も許さないと。ウクライナ侵攻により、台湾では、今日のウクライナは明日の台湾と危機意識が高まる一方で、アメリカは衰退傾向にあり、アフガンから撤退、ウクライナでもロシアの侵攻を止めることはできなかった。よって台湾がアメリカに頼っても最後は、見捨てられる可能性がある。頼りすぎるは無理。今回のウクライナ侵攻を軍事面、情報面、経済面、政治面から分析すると(2022年4月現在、軍事的優位だけでは、短期戦勝利は確実とすることはできないことがわかった。制空権確保も無理。一方、台湾は新型対戦車・対空ミサイルもあり、台湾を攻撃すると中国は逆に自国の損害が大になる可能性がある。情報面では、初めてウクライナ政府、一

般市民はSNSを通じてロシアとは別に独自で発信しているため、ロシアが情報をコントロールできなくなった。経済面では、対口経済制裁や外国企業の撤退に伴い、ロシアの輸出入が減少し、雇用も大幅に減少。通貨価値も下落して、長期的には大幅な成長率低下(30%減?)となる。政治的には、権威主義国家の指導者は、一旦、意思決定すると判断ミスだと分かっても変更は難しい(進まざるを得ない)。各種指標から侵攻は絶対無理という常識的意思決定(合理的選択)がロシアには通用しなかった。また軍事力以上にウクライナ国民の愛国意識(戦う意志)、防衛意識が強いこともわかった。長い物には巻かれるは通用せず、敵意・憎しみもウクライナでは何世代に渡って引継がっている現実が分かった。中国も今回の件で、従来のような一方的台湾侵攻という考えを抑制せざるを得ない(作戦変更の必要あり)と認識したのではない。また中国の国民は、台湾へ武力侵攻しても自国への悪影響はないと98%が考えていたが、この考えも再考せざるを得ないのでは。ウクライナと台湾では、まったく同じではないが、それでも今回のロシアによるウクライナ侵攻の教訓として、中国が台湾有事を起こしたら、それが自身にも跳ね返ってくる可能性があることが分かった。そこまでやって武力侵攻する価値があるかと、中国に意識させることができたなら、抑止力になると思われる。台湾は、日本と付き合っても(日本からは)変な押し付けがないという安心感を持っている。外交面で国際的孤立を経験した台湾は、日本との交流を続けた結果、現状のままでやって行けるという自信を得た。現状、ビザなし交流もあり、台湾人の日常生活の中に日本の存在感が高まっている。日本はこのアドバンテージをしっかり守ってゆけばよいのではないか。

(橋本紀明 記)

◎総会記念講演会（6・11）



写真： 東京大学

演題…「バイデン政権の対中・台 およびインド太平洋政策の評価と展望——ロシア・ウクライナ戦争のインパクトを踏まえて」

東京大学東洋文化研究所佐橋亮准教授

- 1・今は、世界政治の転換点。
- ①『冷戦終結後のよき30年』という時代は終わった（露のウクライナ侵攻）。
- ②米中対立が固定化してきた。
- ③米が相対的に衰退化し、グローバル優先から内向きになっている。覇権国として力強い外交をする様子がない。
- 2・バイデン政権は内向き外交経済を重視しながら、戦争をせず、コストに見合った形で国内経済を刺激して、安定した環境を手に入れたい。
- 3・米が過去に40年間のエンゲージメント政策（中国を関与させる）は中国が将来良い方向変わるという前提おこなってきた。しかし、今、中国を変えることはできないが、米中関係は変えることができるように米側に有利なようにしておく（特に科学技術で中国に対して優位を保つ）、米中関係を破綻しないようにしておくと考えている。
- 4・インド太平洋戦略は、同盟国重視（日と豪が大事で次に韓国）
- 5・アメリカの台湾政策はトランプ政権を引き継いでいる。
- 6・アメリカの極東での防衛ラインに朝鮮半島と台湾は含まないと発表したことが朝鮮戦争を誘発した。そのため、今は、『二つの中国』と台湾有事の際の

『あいまい政策』は変わりないと言いつける。
台湾は死守すべき拠点と発言したこと
で、中国に隙を与えないようにした。
日米同盟は台湾を念頭に置いた同盟に組み換えられている。

（橋本紀明 記）

◎秋季講演会（11・26）



演題「早稲田で台湾を学び、教える」
早稲田大学国際部江正殷部長・准教授

物事の見方について講演した。
独裁国家は、貧困は減らせるが飢饉は減らせない。一方、民主国家は、飢饉は減らせるが貧困は減らせない。
授業で無知の知（自分があまりにも一方的な見方しかしていないという無知）を知ること自分の限界を広げることが学生は学ぶ。
普通の国家は、国民がいてしかる後に国が成立するState nationなのであるが、台湾の場合は、まず国家という箱があったて、そこに国民を入れた。まず国家ありきのNation stateであった。
台湾有事は地震と同じ。台湾は、地震多発地域に位置する。地震がいつ起きるかは予想できない。ただし、その対策準備はできる。

（橋本紀明 記）

◎春季講演会（2023・4・8）



演題…「日台関係の未来と台湾アイデンティティ」
エッセイスト 一青妙さん

一青（ひとと）さんは、台湾の名家である基隆・顔家の長男だった台湾人の父と、石川県にルーツを持つ日本人のお母様との間に生まれた。
父の人生を振り返って思う。父は、2・28事件に振り回され、並大抵でない経験を経て日本に密航、早稲田大学鉱山学科で学ぶ。そんな経歴でありながら、大学時代は破天荒な生活を送る。
「最悪ですよ」と一青さんは微笑みながら、そこには父親に対する深い愛情を感じられた。
自身のアイデンティティを分からなくなり、自暴自棄に陥っていった父を知ることで、自分（一青さん）の中の「台湾アイデンティティ」が次第に大きくなってゆき、これが父からの「ギフト」だと感じ、その後の自身の多方面にわたる活動の礎となった。
父は亡くなる2カ月前に大学の同級生と一緒に写真を撮った。その写真の父の笑顔から、父は自分が何者であるか迷いながらも、早稲田で学んだというアイデンティティをしっかりと持っていたんだなあと感じられたと思った。

（広谷光紗・崇さん 報告）



◎土曜サロン講演会（1・14）



題目…「桃園神社について」
講演…鄭文哲さん（台湾校友会）

台湾で唯一の日本式神社として残っている桃園神社。台湾で日本式神社が建てられた理由は、日本が植民地化後、武力による強硬な植民地政策を展開しようとしたがうまくゆかず、力によらない穏やかな同化政策（融和策）に変更し、皇国精神の徹底と神社参拝を進めようとしたから。台湾に300社の神社建設を計画（最終的に200社）。桃園神社は、満州事変（1931）後に計画され、1938年に完成。1972年の日本との国交断絶により、取り壊されそうになったが、地元住民の反対で残された。その後、劣化が進んだが、寄付により日本から宮大工を呼び、修理。倒壊を免れた。国交断絶後、鳥居最上部（壘辛木）が取り除かれ、今は、双十の形になっている。笠木を復活してはどうかの意見もあるが、私（鄭さん）は、これも歴史の一部だからそのままにしておいた方がいいと考えている。最近、神社を設計した春田直信氏の子息が來台されて、建物を残してくれたことに感謝の意を表された。最近、桃園神社の存在が日本人の中にも知られるようになってきて、観光客が増えつつある。

（橋本紀明 記）



写真：
日本経済新聞

題目…「台湾の半導体産業と東アジアの経済安全保障」
講演… 山田周平(日経新聞記者)

台湾は、白黒テレビなど電気製品を加工して輸出することをやっていたが、これでは産業は高度化できないということ、1970年代後半から半導体を作ろうとした。それまで国民党政権は、大陸反攻のみを考えていたが、実際に中国反攻は無理だと認識。台湾として経済発展をするため、半導体のプロジェクトを始めた。新竹科学工業園区は、清華大学など理工系大学があったため、この工業科学園区に半導体メーカーを集積しようとした。その中の一社がTSMCだった。

1990年頃までは半導体事業を一家がすべて行う垂直統合型であったが、1990年代半ば頃から分業するようになった。21世紀に入ってからその傾向が顕著である。半導体のサプライチェーンは、①企画・提案②回路設計③前工程④後工程⑤販売・物流の5段階であるが、一番難易度が高いのはシリコンウエファアの上を露光する付加価値の高い前工程(③)である。TSMCの最大のお客さんは、北米が70%を占める。中国は15%。日本は5%で低位安定。安保の関係でカギを握っているのは中国。一般的には中国の半導体は遅れている。回路の幅17nm(ナノメートル)以下では台湾のシェアは92%である。

回路の幅の狭いものをファブレスメーカーが作りたいと思うと、現状はTSMCに頼むしかない。TSMCは工場の97%を台湾に集積している。これはわざと台湾においてあるのである。一か所に集中し、規模の経済を追求したほうが効率も良いという産業形態であるため。中国は台湾侵攻し、半導体の取り込みをスピードアップしようとしているが、武力で工場を押さえても、そもそも工場をコントロールできない。工場はあまりにもレベルが高いため、誰かが来てオペレートできるものではない。またリアルタイムで台湾以外の地域、アメリカ、ヨーロッパ、日本のメーカーとつながっているため、中国が、台湾にきて工場を運営できるようなことにはならない。

サプライチェーンの中にいてこそ価値のある半導体に対して、台湾を占領すればどうにかなるという考えはあまりにも短絡的である。台湾を占領した段階でTSMCの価値はゼロになる。それが非常に大事である。

(参考) 2021年度実績

売上	9兆8千億円
税引き後利益	4兆3千億円
トヨタ自動車	3兆4千億円
税引き後利益	2兆9千億円
1mm(ミリ) 1100万nm(ナノ)	
TSMC	2025年に2nm製造予定

(橋本紀明 記)

■新入会員紹介 (入会順、敬称略)

岡温子/大崎雅文/加藤健治(会友) / 簡憲幸(会友) / 池本好伸(会友) / 佐藤寿哉/小島雄三/山田周平/萩谷東以子さん(元会員故萩谷博さま奥様) / 王軍硯(WTSA2012年度会長) / 傅馨儀/王俊硯/西本誠/迫田勝敏 / 富澤賢公/(3月)佐野英夫

■今年度会費のお願い

川村淳一(会計担当)

コロナ禍が終息に向かいつつありますので、2023年度は稲門会も従来のように活動を広げてゆきたいと思っております。そのため、コロナ自粛期間の年会費は3000円でしたが、今年度は従来の通りの5000円にいたしました。ご理解のほどをお願いいたします。

◎銀行振り込みの場合

みずほ銀行 六本木支店(店番053)
口座番号…普通預金 4448937
口座名義…日台稲門会(ニッタイトモンカイ)

◎郵便局振り込みの場合

加入者名… 日台稲門会
口座番号…0013018169805
郵便局の場合は、通信欄にもお名前の明記をお願いいたします。
ご不明の場合は、左記までお問合せください。 junchi.kawamura.di@gmail.com

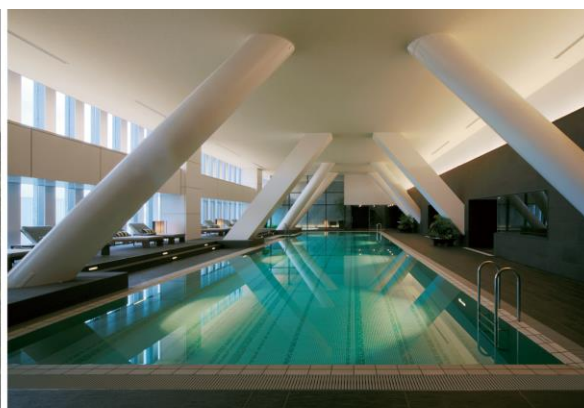
■編集後記

今回の会報では、元駐在員なら行ったことがあるものの、その歴史について意外に知らない『芝山巖』と『桃園神社』についてページを割きました。

どちらとも歴史に翻弄された旧跡であるため、調べれば調べるほど興味が湧くと思われます。訪台の際、行かれたらいかがでしょうか。今後、訪れる日本人観光客が増えそうな気がします。そのうち、ブラタモリにも紹介されるかも知れません。

また今回は、政治だけでなく、経済的からも、昨今、台湾が注目されている現状について取り上げました。

なお、年3回の講演会(春季、総会、秋季講演)だけでなく、不定期ですが、台湾の旬な情報を各界の専門家の方から聴く『土曜サロン』という講演・座談会も紹介しました。毎月第二土曜日の日台稲門会幹事会の後、午後4時より開催していますので興味のある会員・会友の方は是非ともご参加ください。(橋本)



心とらぐ、上質な時間——。

ここに、都会の喧騒を忘れる上質な時間と
四季の移ろいを感じる和らぎがあります。



ザ・キャピトルホテル 東急の
ウェブサイトはこちらから

ザ・キャピトルホテル 東急 The Capitol Hotel Tokyu

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-10-3 Tel 03-3503-0109 www.capitolhoteltokyu.com

